

【美しい水を守り継ぐために】

福岡県 北九州市立熊西中学校 二年 高松 佳凜

秋になると、私は河内貯水池の周りをサイクリングしたくなる。水面に映る紅葉を横目に、風を切り、自転車をこぐ。シンボルの赤い橋のところで自転車を降り、貯水池を覗き込むと、日の光をたっぷりと反射したきれいな水が光っている。

私の住む北九州市には、私が訪れたことのある、まずぶちダムや畑ダムなどの主要ダムがいくつもある。北九州市の工場やおよそ百万人の市民の暮らしを支えるダムは、とてつもなく広大だ。私はダムについては知っているが、貯水池についてはよく知らない。そこで、私は河内貯水池について調べてみることにした。

河内貯水池は人工湖で、北九州国定公園に指定されているそうだ。また、貯水池のシンボルでもある赤い橋は、南河内橋という名称で親しまれている。貯水池の水面に映り、自然に溶け込むように美しく架かるこの橋は、長年市民に愛され続けている。

私はなぜ河内貯水池が必要だったのか疑問に思った。調べていくうちに、官営八幡製鉄所の水の確保のために築かれた貯水池だということが分かった。急激な近代化にともない、自分の国で鉄鋼材を生産する必要がある、官営八幡製鉄所は建設されたそうだ。製鉄には冷却水、洗浄水などの大量の水を使う。そのため安定した水の確保が必要となり、河内貯水池の建設を始めたのだという。

私が知っている水の使い方は、飲用、洗濯、風呂、トイレ、洗い物などだ。そのほかに工場でも大量の水を使うということを知り、水の大切さを改めて思い知らされた。

現在、官営八幡製鉄所は世界遺産に指定されている。河内貯水池は、当時日本の鉄鋼材の生産のために作られ、その水は日本の産業を支え、歴史に大

きく関わっていると知り、驚きとともに当時の人々の思いを知るきっかけとなった。

水は私たちの生活に欠かすことのできない大切な資源である。もしも雨が降らなかつたら、水をろ過しても悪い成分が残り飲用にならなかつたら。そのような考えると、蛇口からいつでも安心して飲める水が出てくることは、とてもありがたいことだと思う。このような環境がずっと続いてほしいと思う。同時に、当たり前前に水を使うことが出来る生活がずっと続くのか少し心配にもなる。

以前台湾へ旅行に行ったとき、水道水は飲まないようにとガイドブックに注意書きがあった。日本では水道水を飲むのは普通のことだったため、戸惑った。台湾の水は、カルシウムやマグネシウムを多く含む硬水であり、雑味がありお腹を壊しやすく、飲用に適していないという。他に、水道管や貯水タンクの清掃など衛生面での問題もあるそうだ。飲用の水を供給するということは、技術や管理、水の成分など様々な条件があり、大変なことなのだ実感した。蛇口から出る水を飲めない国もあると分かり、日本は本当に恵まれているのだと感じた。

私たちがこれからより良い生活を送っていくためには、産業の新たな開発が必要で、これからも発展し続けるだろう。その一方で、自然や人間を含め地球上の生物が生きていく上でかかすことのできない限りある資源を守っていくかなければならない。中学生の私でも、生活の中の小さな問題点を見つけ、改善していくことはできると思う。例えば節水を心がけること。海や川が汚染されないようプラスチックごみを減らすため、エコバッグを利用したり、ごみの分別をしたりすること。今までも言われてきたことで、何となく行っていた。だがその重大さに気づいた。今できることを確実に言い、も

つと他にも改善策を考えたい。私にできることを実践し、美しい水、そして美しい地球を大切に守っていききたい。